



語ろう!
知ろう!
見よう!

ちば ミライへの扉

Open the Door to the Future

2021.6.20 SUN

千葉市まちづくりシンポジウム

未来のちばライフを語ろう～バーチャル会場で語る千葉市のミライ～

千葉市まちづくりシンポジウム

『ちば ミライへの扉』

～Open the Door to the Future～

開催記録

2021.6 千葉市

目次

実施概要	P,2
シンポジウム オープニング 市長挨拶 パネルディスカッション テーマ1：20年後・30年後を見据えたまちづくり テーマ2：千葉市の特性を踏まえたまちづくりの方向性 質疑応答 クロージング	P,3
結果報告	P,17
仮想空間	P,25
施設でのパネル展示	P,27

実施概要

イベント名	まちづくりシンポジウム 「ちば ミライへの扉 Open the Door to the Future」
テーマ	未来のちばライフを語ろう！ ～バーチャル会場で語る千葉市のミライ～
シンポジウム	
日時	2021年6月20日（日曜日） 14時00分～15時00分（開場10時00分）
場所	オンライン配信 ※収録：ダイワロイネットホテル千葉中央
視聴方法	1, 仮想空間で生配信を視聴 2, YouTube Liveで視聴 3, 千葉市美術館さや堂ホールで視聴
配信内容	オープニング 市長挨拶 パネルディスカッション テーマ1：20年後・30年後を見据えたまちづくり テーマ2：千葉市の特性を踏まえたまちづくりの方向性 質疑応答 クロージング
仮想空間	
日時	2021年6月20日(日曜日)～6月27日 (日曜日) ※6月20日（日曜日）のパネルディスカッション生配信時間中は、事前登録をした方のみの公開。
展示内容	シンポジウム 千葉市基本計画パネル展 市民参加の取り組み展
施設でのパネル展	
日時	2021年6月15日(火曜日)～6月28日(月曜日)
展示内容	千葉市基本計画(素案)の概要 (重要な将来変化、戦略的視点、各分野の主要な事項など)
場所	花島コミュニティセンター ゆみ～る鎌取 イオン稻毛店 イオンモール幕張新都心店 そごう千葉店 イコアス千城台

シンポジウム/オープニング



タケト氏 みなさんこんにちは！
まちづくりシンポジウム『ちば ミライへの扉
Open the Door to the Future』進行役を務めさせて頂きます、吉本興業のピン芸人 タケトと申します。

さあ皆様、仮想空間を楽しんで頂けていますでしょうか。仮想空間で皆様と会えるということで、本日は短い時間ですが皆様宜しくお願ひします。このシンポジウムでは、千葉市に関わる皆様に千葉市の未来について考えて頂く機会にするため、「未来の千葉ライフを語ろう、バーチャル会場で語る千葉市の未来」というテーマで開催してまいります。

私も千葉県千葉市中央区出身で、なんと中学の同級生が元巨人の高橋由伸ということで、中学のときはとても仲が良く、由伸が巨人に入団した年と僕が吉本に入った年と同じで、「お互い別世界に行くけど、別世界で成功したらもう一回会おう」と話しましたが、20年間会っておりません。そんなタケトでございます。宜しくお願ひ致します。シンポジウムの後半には、質疑応答のコーナーもございます。事前に登録して頂いたうえで仮想空間でご覧頂いている方はパネリストに質問を随時送ることができます。画面右下の「コメントはこちら 質問受付中」というアイコンを押してもらうと質問用のチャットができますので、ぜひ質問をお送りください。

それでは、本日の登壇者を紹介いたしましょう。株式会社ソニーコンピュータサイエンス研究所代表取締役社長 北野宏明さんです。北野さんは本日オンラインでの参加となります。北野さんは普段どのような活動をされていますか？

北野氏 ソニーの研究所で色々なことをやっています。私自身は人工知能と生物学が専門ですが、研究所では農業やソニーのビジネスに関係すること、再生可能エネルギーなど色々な研究をやっています。最近は内閣官房のコロナ対策も行っています。今はワクチンが進んでいますので、早くワクチンを打ってコロナを乗り切ることが最大の焦点だと思います。本日は宜しくお願ひ致します。

タケト氏 続いては、千葉大学大学院園芸学研究院教授 秋田典子さんです。千葉大学でどのようなことをされているのですか？

秋田氏 普段はランドスケープという緑の空間、あるいは都市づくり、都市計画など、主にハードの私たちの暮らしの空間に関わる仕事や研究をしています。宜しくお願ひ致します。

タケト氏 続いては、MOTHERS編集部編集長 小脇美里さんです。小脇さんは普段はどのような活動をされていますか？

小脇氏 私はもともと編集者なのですが、去年MOTHERS編集部というママ達のコミュニティのメディアを立ち上げ、ママでいることが女性のキャリアの一つになるように、そして社会との繋がりや経済的な自立ができるようにコミュニティを構築するメディアをつくりております。宜しくお願ひ致します。

タケト氏 そして最後に、千葉市長 神谷俊一さんです。

神谷氏 本日は豪華なメンバーにお越し頂き、本当にありがとうございます。それぞれのお立場で未来を見られている方々ばかりですし、暮らしや社会をデザインしている方々だと思います。千葉市の将来への気づきを本日沢山頂きたいと思いますので、どうぞ宜しくお願ひ致します。

タケト氏 本日は以上の四名の登壇者の皆様とお送り致しますので、ご覧の皆様も宜しくお願ひ致します。

シンポジウム/登壇者のご紹介

パネリスト 北野宏明氏

株式会社ソニーコンピュータサイエンス研究所 代表取締役社長
ソニーグループ株式会社 常務。

株式会社Sony AI 代表取締役 CEO。

特定非営利活動法人システム・バイオロジー研究機構 会長。

ロボカップ国際委員会 ファウンディング・プレジデント。

The World Economic Forum (世界経済フォーラム) AI & Robotics Council委員 (2016-2018) 、
Quantum Computing Council委員 (2019-2020) などを歴任。

日本文化デザイン賞 (日本文化デザインフォーラム) (2001)、

ネイチャーメンター賞中堅キャリア賞 (2009) など数々の権威ある賞を受賞。

ベネツィア・建築ビエンナーレ、ニューヨーク近代美術館 (MoMA) 等で招待展示を行うなど、数々の実績をもつ。



パネリスト 秋田典子氏

千葉大学大学院園芸学研究院 教授

2004年東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻博士課程を修了。博士（工学）。

その後、東京大学国際都市再生研究センター研究員、

東京大学大学院新領域創成科学研究科研究院を経て

2008年より千葉大学大学院園芸学研究科准教授、2021年より現職。

東日本大震災の被災地にて10年間復興支援活動を継続し2008年に復興大臣より感謝状を授与される。

国土交通省社会資本整備審議会等にて国の都市政策、河川政策等に関わる。



パネリスト 小脇美里氏

高校時代より、読者モデルとして多数の雑誌で活躍。

アパレルブランド立ち上げに関わりプレス・デザイナーを兼任。

その後、CanCamのファッショングエディターとなり人気企画を担当。

フリーとなり、エディター業のほかウェディングドレスブランドディレクター、

人気アーティストのスタイルリスト、女優・俳優などの写真集・広告ディレクション、

自身の著書を出版するなど多岐にわたり活躍。

ママ向けメディア、MOTHERS編集部を立ち上げ、編集長に。

SDGsの取り組みにも力を入れ、鰐江市の顧問にも就任。2児の母。2019年、「ベストマザー賞」経済部門を受賞



千葉市長 神谷俊一

愛知県出身。千葉市中央区在住。1996年東京大学経済学部卒業。

1996年旧自治省に入省。2004年佐賀県新産業課長、2010年佐賀市副市長などを歴任。

2013年千葉市経済部長に就任し、2015年同市副市長に。

その後、2018年総務省消防庁国民保護・防災部広域応援室長、

2019年自治行政局住民制度課個人番号カード企画官を経て、2021年3月千葉市長就任。

趣味は料理、卓球、山歩き。

座右の銘は「一隅を照らす」。一つ一つの地域が元気にならなければ、国は元気にならないとの思いから。



モデレーター タケト氏

千葉県千葉市出身。2012年にトリオ Bコースを解散し、ピンで活動中。

現在は、多くのイベントや記者会見のMCを務めたり、

保育士の資格と育児系の資格を多く持ち講師として各地で講座を開催、

芸人の中でも交友関係が広くコミュニケーション能力にたけている事もあり

コミュニケーション術の講義や授業も行っている。

また趣味のDIYで購入した家をフルリノベーションなど万能である。



シンポジウム/市長挨拶

タケト氏 それでは、本日の主催者を代表いたしまして、千葉市長 神谷さんよりご挨拶をお願い致します。

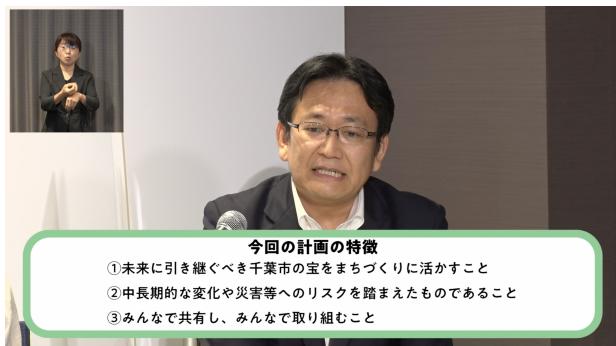
神谷氏 本日は、まちづくりシンポジウム「ちはみライの扉」をご視聴頂き、本当にありがとうございます。ご登壇の皆様にも改めて感謝を申し上げます。

千葉市は今、まちづくりの大きなビジョンを描く新しい基本計画づくりに取り組んでおります。このシンポジウムでは、**基本計画の素案を千葉市に関わる多くの方々に知っていただき、千葉市の未来に関心をもって頂くことを目的として開催いたします。**

基本計画は千葉市をより良いまちにしていくために、中長期的な未来を見据えながら、今後10年間のまちづくりの方向性を定めるものです。行政だけではなく、市民の皆様と共有して取り組むまちづくりの計画にしたいと思っています。

今回の計画では、**未来に引き継ぐべき千葉市の宝をまちづくりに活かすこと・中長期的な変化や災害等へのリスクを踏まえたものであること・みんなで共有しみんなで取り組むこと**を特徴とした計画にしていかなければいけないと考えております。千葉市は**2021年1月に市制100周年**を迎え、大きな節目の年でございます。これから10年、100年のまちづくりを進めていかなければなりません。歴史の中で築いた千葉市の宝を未来へ引き継ぎながら、人口減少などの千葉市が向き合っている課題や重要な社会変化に対応していくことが重要だと考えています。そして、まちづくりを進めるためには千葉市に関わる皆様の力が必要不可欠です。これまで皆様とともににつくってきた計画の記録については仮想空間内で計画の素案の概要とともにご覧頂けますので是非ご覧ください。**様々な視点からご意見を頂くことで、より良い、みんなで共にできる計画になっていく**と思います。

今日のシンポジウムが千葉市での未来の暮らしを考える良いきっかけとなって、より良い未来のために市民の皆様とともにまちづくりを進めていく一歩となれば良いなと思っています。本日は宜しくお願ひいたします。



今回の計画の特徴

- ①未来に引き継ぐべき千葉市の宝をまちづくりに活かすこと
- ②中長期的な変化や災害等へのリスクを踏まえたものであること
- ③みんなで共有し、みんなで取り組むこと

パネルディスカッション

タケト氏 ここからはパネルディスカッションをスタートして参りますが、ご視聴して頂いている皆様に再度ご案内です。後ほど質疑応答のコーナーがございます。事前登録をして頂いたうえで仮想空間でご覧頂いている方はパネリストに随時質問を送ることができます。画面右下の「コメントはこちら 質問受付中」というアイコンを押してもらうと質問用のチャットが出てきますので、皆様是非投稿してください。

それでは早速参りましょう。最初のテーマは**「20年後・30年後を見据えたまちづくり」**です。このテーマはまず、北野さんと秋田さんからプレゼンテーションを行っていただき、その後ディスカッションを進めて参りましょう。それでは北野さん、宜しくお願ひ致します。

パネルディスカッション テーマ1： 「20年後・30年後を見据えたまちづくり」

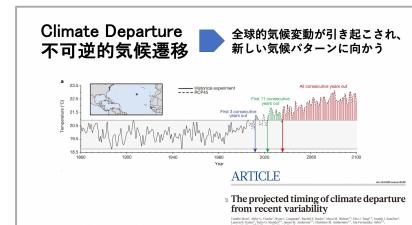
北野氏 一番最初に地図(資料1)が出てきますが、普通の地図とは違い、上下逆さまにしています。普通の地図ですと東京中心に見てしまうことが多いですが、こちらを見ると**千葉は東京や都心部を後ろに控えて、東京へのアクセスや房総半島の入り口に位置しているので、ここをどのように千葉と連動させるかが大きなポイントになる**かと考えます。また、成田にアクセスがあり、太平洋側にも抜けられることが千葉の特徴になるかなと思います。

これから何が起こるかというと、**気候変動**です。暑くなるということだけでなく、**気候のあり方が根本的に変わる**ということです。資料2は太平洋のある所の温度ですが、元の温度には戻らず2℃程度上がってしまうということを示しています。

資料1



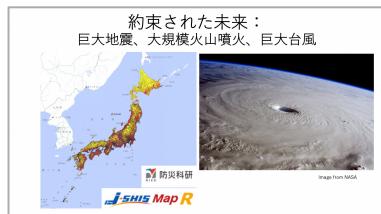
資料2



シンポジウム/パネルディスカッション

北野氏 未来についてですが、約束された未来とは、実は良い未来もありますが悪い未来もあり、巨大地震や火山噴火、台風などはほぼ確実に起きます。それに対してどれだけ安全を提供できる街かということが、これから非常に重要なポイントになるかと思います。

資料3



また、スマートシティという話がどんどん出ていますが、上手くいった所はほとんどありません。マスダールもトロントも全然上手くいかないです。トロントの場合は埋立地で、Googleが一生懸命行いましたが、挫折し撤退することになりました。千葉も同じような立地条件(埋立地)にあるため、スマートシティに関しては研究する必要があると考えます。

資料4



資料5



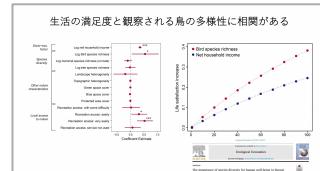
最近、イギリスが「生物学的多様性は非常に重要」だと言っています。我々はサステナビリティや持続可能性というとカーボンニュートラルのことを言いますが、サステナビリティの中でいうとカーボンニュートラルはごく一部のことであり、生物学的多様性は凄く重要です。

グラフ(資料7)だけでは分かりづらいですが、最近出た論文で、生活の満足度で一番相関があるのは、収入などではなく、その環境にどれだけ沢山の鳥の種類の声が聞こえるかということが一番相関があると書いてありました。これは、その周りの生物学的多様性が凄くあるということだと思います。

資料6



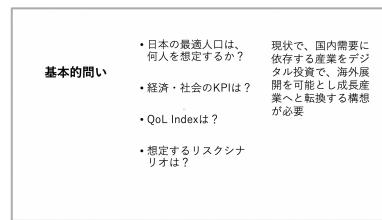
資料7



北野氏 ではどうするかというと、生物学的な多様性とネットワーク(水の通り道、風の通り道、生き物の通り道、車や歩行者の通り道など)を多様につくっていくということ、そして、多様性は生物学的だけではなく文化的な多様性やライフスタイルの多様性が重要だと思っています。例えば現在、コロナウィルスの影響でリモートワークをできる人はリモートワークになっているため、どこに住んでいても大丈夫になりました。今までの利便性ではなく、違うところに価値を感じられるようになるため、そこを千葉がどのように利用するかということが凄く重要なと感じますし、千葉市自体も生物学的、文化的なライフスタイルの多様性ができれば良いなと思います。

どのような街をつくっていきたいか、どういうことをやるのかというビジョンが必要だと思います。設計思想としては恐らく、湾岸生態系やレジリエンス、災害やパンデミックで生き延びるということ、そして色々な実証実験を繰り返すだけでなくすぐに実用で出来るようなことを政策に入れて頂ければなと思います。

資料8



資料9



タケト氏 ありがとうございます。幸せと生活的多様性の繋がりは凄く面白いですね。

北野氏 色々な鳥の種類の声があるほうが生活満足度が高いということが一番インパクトがあり面白いなと思いました。

タケト氏 続いて秋田先生、お願ひします。

シンポジウム/パネルディスカッション

秋田氏 この写真(資料1)は、2011年の東日本大地震から私がずっと10年間関わってきた場所で撮影したものです。この写真のガーデンが先日、2020年度日本造園学会賞を受賞し、現場から関係者で受賞の講演をしました。色々なことを話しましたが、聞いている人の耳に残ったのは鳥の声だと言われ、先ほど北野先生がおっしゃっていたことがまさにその通りだと思いました。

私は実際に都市空間づくりなどに関わってきたので、その話をしたいと思います。

まず、「**自分たちが住む街にとってこれから大切にしたいことは何か**」。おそらくそれは、**街に対する愛情や愛着**だと私は思います。

今まででは綺麗な街を作れば街も良くなると思っていましたが、これからは**美しいものをつくるよりも、美しく使っていくことが一番大事**になるのではないかでしょうか。

ここに示している(資料2)のは、数年前に都営地下鉄で使われたポスターのフレーズです。ここで使われた写真は図書にもなっています。このような**ごく普通の空間でも、綺麗に使われて愛情がいっぱいかかっている場所が美しいのではないか**と思われます。

こちら(資料4)は、家の前に並べられた植木鉢ですが、自分の家からこの植木鉢を見ることはできません。街を通る人たちが気持ち良いように、楽しめるように、このような緑を並べています。

10年後のまちづくりにとって大切なことは、北野先生のお話とどこかで繋がると思いますが、**様々なものが便利になってくる社会だからこそ、手間と時間が価値を持つのではないか**と思います。

資料 1



資料 2



資料 3



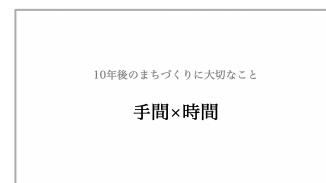
資料 4



秋田氏 写真(資料6)は最初の写真と同じ場所ですが、このように色々な人がまちづくりに関わってきました。震災直後は何もない場所(資料7)でしたが、みんなの手で種を植え(資料8)、少しずつ芽が出て(資料9)、最後にはこのように(資料10)沢山の人が集まる場所になりました。この場所は今、地域にとってかけがえのない唯一無二の場所になっています。

これから20年後・30年後を見据えたまちづくりにおいては、**千葉市をみんなで大切に育てて唯一無二の場所にしていく**ということが何より大事だと思っています。

資料 5



資料 6



資料 7



資料 8



資料 9



資料 10



資料 11



タケト氏 ありがとうございます。

全然違うプレゼントで考えて頂いたのに、繋がってくるというのは本当に面白いですね。小脇さん、お二人のお話を聞いていかがでしたか。

小脇氏 私は一市民、普通のママの代表として今日お話をさせて頂けたらと思います。

20年後ということは子供達が大人になる年なので、このときに自分の街がどのようにになっていて欲しいかなというように考えることが一番大切なのではないかと思っています。

シンポジウム/パネルディスカッション

小脇氏 そのため、今日のような素晴らしい先生方や有識者の方の意見をリアルまたはテクノロジーを通して市民の方に伝えられる取り組み自体が素晴らしいと思います。このようなインタラクティブな取り組みを他の市ではあまりやっていないと個人的には感じています。一緒につくっていこうと言われても難しいことが多いですが、先ほどの鳥の声のように**分かりやすく、自分ごと化するようなことを**考えていけば、市民の皆様もどんどん参加していけるのではないかなと思います。まずは市民の皆様が自分ごと化して考えていくことが大事だと思います。

タケト氏 たしかに自分ごと化することは大事ですよね。住んでいる街でも誰かがやってくれるだろう、というように他人ごとになってしまいますよね。ここからはフリーでディスカッションになります。**20年後・30年後を見据えたまちづくり**をテーマに、皆様ご意見をお願いします。

北野氏 20年・30年は長いようすぐですよね。恐らく、**多様性ということがすごく重要な街**になると思います。生物学的多様性ということもですし、人口構成もすごく変わってくる部分です。例えば人口構成において、外国から来る方が増えるということもこれから加速すると思いますし、色々な考え方の人がいるので、みんなが思い思いに住めるような場所ということが重要です。ライフスタイルも変わるために、多様性ということが一番重要なキーワードになってくるのではないかと考えています。

秋田氏 千葉市は、海があり街があり里があり山があるということで、本当に**千葉市自体が多様性に満ちている**と思います。このように恵まれた場所はなかなかないので、土地が持っている多様性がこの街の基盤になっていくと私は思っています。それから、千葉市に来ると風が強いなといつも思います。千葉市の皆様も風が強いと感じていると思いますが、風が海と街と里と山を繋げているような気がしています。**土地の多様性、風が繋げていく街、鳥や動物が繋げていく街**といったように**様々な層で繋がっていく可能性がある千葉市**だと思っています。

小脇氏 千葉市は市政で「共生」ということを揚げていらっしゃいますが、**多様性と共生は通ずるところがある**と思います。共に生きるということが、子供を持つ親としてはこれから最も大事だと思っています。最近、MOTHERS編集部でSDGsのことを取り上げていますが、SDGsという言葉を知らない方も多いです。ですが噛み砕いて「地球温暖化について考えるんだよ」「レジ袋が有料化してエコバックを持つこともSDGsの一つなんだよ」という風に伝えると、それはやっていると言う方多くいらっしゃいます。

小脇氏 そのため、**20年後・30年後にみんなでよい街をつくっていこう**というときに、子供、ママ、お年寄りまでみんなに分かりやすい言葉や伝え方をするという点を実際につくられていく方々が意識していくと、みんなでまちづくりをするということが本当に実現できるのではないかと強く感じます。

タケト氏 たしかに伝え方は大事ですよね。SDGsも、国連が掲げる17の持続可能な目標と言われると自分は関係ないと思ってしまいますよね。でも本当は身近なことですよね。

小脇氏 そうですね。先ほど色々な国の方が増えるというお話もありましたが、今、色鉛筆の箱に肌色とは表記されていません。ペールオレンジか薄橙と書かれていて、当たり前のことはあるのですが、まだ学校の先生などで肌色と言ってしまう方もいます。でも肌の色はあの色だけではないということは当たり前のことで、これもSDGsの一つだと伝えることで自分ごと化されるのかなと思います。

神谷氏 パネラーの方々から発表を頂きましたが、計画をつくるうえで大切にしなければいけないキーワードとして**「多様性」「共生」、そして「房総半島とのリンク」**というものがありました。今回の基本計画素案でもすごく大事にしている部分です。

特に多様性は、人口構造も変わっていますし外国の方も増えてきました。公園ひとつを見ても、時間帯によって使い方が全然違いますし、どのような形で公共施設と言われてきたものをデザインするかを考えていく中で、公務員だけでは多様性に対応できていけないと思います。ですので今回、大きなビジョンとして基本計画をつくりますが、**様々なお立場の方が自分ならこう使う**というような意見を色々と出し合って頂いて、あまり細かく決め込まずに、大きな共有できるようなコンセプトをまとめていなければ良いなと思いました。

あと房総半島とのリンクは凄く大事なことであり、千葉市の範囲の中だけで決めてしまうこともあると思いますが、千葉市の場所は非常に抜群の場所だと思っています。東京にも通え、房総半島にも食事や遊びにすぐに行けるので、仕事をするうえでも遊ぶうえでも絶妙なバランス感にあります。房総半島の良いところを生活しながら楽しめる場所だと思うので、**千葉市を基点に見て広い範囲で千葉県全体、関東全体を見て暮らしの質を上げていくような基本計画**にできれば良いなと思いました。

シンポジウム/パネルディスカッション



タケト氏 市長のお話を聞いて、公共施設についてなども皆様の意見でつくれる可能性もあるということで、是非皆様も意見など色々言ってみたいですね。例えば、うんていをモノレールの形にしたり、砂場を落花生の形にするなど、色々な意見で作ることができたら面白くなりそうですね。

それでは続いてのテーマに参りましょう。続いてのテーマは、「**千葉市の特性を踏まえたまちづくりの方向性**」です。

パネルディスカッション テーマ2： 「千葉市の特性を踏まえたまちづくりの方向性」

秋田氏 千葉市の特性は、海・街・里・山があることということを先ほどもお話しましたが、今話題のSDGsのお話の中で私が一番重要だと思っているのは「**誰一人取り残さない(No one will be left behind)**」というテーマです。とくに千葉市は非常に人口も多く大きな街で沢山の方がいらっしゃるので、誰も取り残さないということはとても重要だと思っています。とくに人口の多い街では、このような**自配せ**が一番大事だと思います。また、今あるものを大切に育てていくということを市長がおっしゃっていましたが、公共施設や自然環境のように千葉市には既にいっぱい良いものがあるので、これらをどうやって大事にしていくか、どうやってみんなが参加して自分たちのものとして育てていくかということが大切だと思います。

北野氏 海へのアクセスと房総半島がキーになると思います。特に東京湾にどのようにアクセスできるのかということなど、東京湾の一番奥なので東京湾をうまく使えると面白いかなと思います。また、風が強いということを先程聞きましたが、**風力発電**なども出来るのでしょうか。風が弱くなったり舞ってしまったり、日本での風力発電は難しいですが、もし地形的に割とコンスタントに風がある一定の方向から吹いていると風力発電もできるかもしれません。非常に**大きな風の谷の**ようなイメージがあり、このようなことを活かせると面白いのかなと思います。東京と違う価値観で、埋立地を生かした新しいタイプの開発や、工場の再配置を使って何か出来るのではないかという気がしています。

小脇氏 今お話をあったように、**海も山も揃つていて自然が豊か**というところに加え、なんでもそろう・なんでも出来る利便性も凄くあります。東京に通勤している方もいるものの、千葉市内で働いている方も多いということで、コロナ禍において働くお母さんは移動することにも気を遣うので、全員がリモートワークできる仕事ではないと思いますが、**自分の生活圏内で働ける環境があり、海や山がある**という子育てにおいて凄く良い環境もあるので、このようなことを活用していくと、今の子供たちが大人になったときにもこの街に住みたいと思うのではないかと感じました。

タケト氏 なるほど、ありがとうございます。神谷さん、このような意見が出ておりますが改めて千葉市の特性について教えて頂けますか。

神谷氏 三名の登壇者から千葉市の特性についてご指摘を頂きましたが、千葉市に住んでいる方も、ほとんど来たことがないと言う方もいらっしゃる中で、それぞれ的確なご指摘を頂いたと思います。千葉市の特性として考えられることは、まず**居住環境が良い**ということだと思います。古い話にはなりますが、特別史跡の加曽利貝塚があり、2000年以上の間一箇所で生活をしていました。昔から居住環境が良いということで特別史跡にして頂いています。都心部のベットタウンというイメージがあるかもしれないですが、実は東京への通勤者は二割程に限られており、六割の方が市内で勤務されていて、**昼夜間人口比率が高い地域の拠点都市**になっています。日常生活を送るにあたっても、非常に便利な街ではないかと思います。市民参加の取り組みでも挙げられていましたが、**都市の利便性と自然の優しさが同居している、併せ持っている街**だと思っており、バランスが取れていると思います。

ただ、バランスが良いがゆえに、千葉市民の方が千葉市の推しを説明しにくいということもあるので、より街に愛着を持っていただくためには千葉市の誇りになるようなものを磨いていかなくてはいけないと思っています。**加曽利貝塚・オオガハス・千葉氏・海辺など千葉市が100年間の歴史をかけて発展してきた中で、それぞれ先人が大事にしてきた地域資源を市民の方に誇りに思ってもらえるように磨き上げの取り組み**をしています。コロナ禍で動きが変わってきたことが、これまでには千葉市から東京に転居する人が多かったものの、東京から千葉市に転入してくれる方が多くなっていることです。これまで職住近接の豊かな生活が出来る環境でしたが、このような価値が改めて見直されている時代になってきたのではないかと思います。将来不確かな要素はありますが、今ここで**市民の皆様と街の良さを共有したうえで、千葉市が明るい道を開いていければ**なと思います。

シンポジウム/パネルディスカッション

タケト氏 さあ、ここからはフリーでディスカッションとなります。皆さん、千葉市の特性を踏えたまちづくりの方向性をテーマに、ご意見をお願いします。

北野氏 今皆さんのお話を伺いすると、色々な自然の多様性があることが面白いのかなと思っています。私も都内に住んでいますが、私の場合は会社のオフィスに行かなくてもほとんどの仕事を出来ることが分かったので、例えば千葉や房総半島のどこかに住んで仕事をしていても誰も気が付かないと思います。人が沢山いるところではない違うところに住んで自然の中を散歩するということもむしろ良いと思いました。ただ、一つだけ問題なのはやはり医療です。地方に行った時の問題は、地方の医療の脆弱性が気になります。例えは何か緊急対応しなければいけない時に搬送先が一時間先となるとアウトになってしまいます。そのため、外に出て自然の近くにいたいとは思いつつ利便性はあまり落ちたくない、医療はしっかりとしたいとほとんどの方が思うので、この辺りのバランスは千葉が良いのかなという気がしました。

神谷氏 医療環境は千葉市内に限ってお話をすると、三次医療までできる病院・病床を確保しておりますので、先生がおっしゃったご心配はとくに無いかと思います。今、市立病院の建て替えも進めており、市民の皆様の医療の心配がないような新病院をしっかりと作っていきたいと思います。

秋田氏 コロナ禍により地方移住が増えるのではないかということが予想されていました。しかし全国調査の結果を見ますと、地方への移住が進んでいるのではなく、多くの方が千葉と神奈川に移動していたという結果が出ています。ちょっとした時に都心に出られる距離感ということが、千葉や神奈川が選択された理由だと思っています。千葉県というのは大都市でも地方都市でもない、独特的のポジションですが、千葉県の中で人口が増えているのが木更津市と館山市でした。木更津市はアクアラインですぐに行けて、館山市は海が近く地方移住気分になれますよね。このように千葉県自体が居住地としてのポテンシャルが高く、これからはポテンシャルの高い千葉県の拠点としても千葉市は凄く期待が高まる場所になると思っています。

タケト氏 たしかに、木更津は都心から近いですし、館山は気候も暖かいので南国気分も味わえますよね。

北野氏 館山には、亀田病院があり、医療もしっかりしていますね。

秋田氏 千葉県は全国47都道府県の中で一番基幹病院の数が多いです。基幹災害拠点病院が4つもあるということは他の県にはないですね。

タケト氏 本当に千葉って良い所ですね。

小脇氏 千葉市に住みたくなりました。医療は子育てにおいて本当に大事だと思いますし、単純に海は気持ちが良いですよね。私も今は都内に住んでいますが、出身は神奈川県で少し自然があることに住んでいたので、秋田先生がおっしゃっていたように神奈川と千葉に移住する人が多いというところは共感します。そういう気持ちを受け入れられるようなシステムなどが出来ると、より人は集まってくるのではないかと思います。千葉市は子育てに対する色々な政策にも力を入れていらっしゃると思うので、本当に住みやすいですね。

神谷氏 自然環境を大事にしていかなければいけないということは、これからの中でも極めて重要なと思っています。今まででは海辺の開発を進めてきました。海を感じられないのではないかという指摘もありましたが、もともと千葉は埋立があるまでは漁業をしている方もおり、海とともに生きてきた街です。海が感じられる街ということで、稲毛海浜公園の中に林がありますが海が見えるように間引いてみたり、公園自体も楽しめるような形でカフェやレストランにしたり、海を感じながら生活していく環境を大事にしてきました。

これからは海だけではなく河川の親水環境も大事にしていかなくてはいけないと思っています。花見川・都川など様々ありますので、海辺だけでなく山側の親水環境もしっかりと作っていかなくてはいけないと思っています。もともと街中に緑が多いので、このようなものをしっかりと残してコンクリートジャングルの中で働くのではなく、千葉にいながら仕事もお住まいも出来る、そのような街にしていかなければなと思っています。

シンポジウム/質疑応答

タケト氏 続いては質疑応答のコーナーに参りましょう。仮想空間でご覧頂いている皆様はまだ質問投稿していなければ、画面右下のアイコンを押して投稿してみてください。そして千葉市美術館さや堂ホールで上映をご覧になってる方やYouTubeLiveでご覧になってる皆様は、残念ながら今回質問受け付けることができませんが、この質疑応答を見て楽しんでください。それでは最初の質問はこちらです。

〈質問1〉テクノロジーが浸透していくのは時代の流れだと思うが、同時に人間が愛着を持てる街であり続けることが大事だと思う。そのためにはどうしたらよいとお考えでしょうか。

まずは北野さんからお聞きしましょう。いかがでしょうか。

北野氏 テクノロジーは黒子なんですね。前に出るテクノロジーはやはり未熟で、気が付かないうちにサポートしてくれるテクノロジーが、本当に成熟した技術だと考えます。またテクノロジーと街は、ライフサイクルが異なります。例えば情報関係は6ヶ月でも陳腐化したり、5年持てば御の字で、どんどん変わります。一方、街は100年、200年、場合によっては1000年ぐらいの単位の話です。ライフサイクルが全く異なるため、スマートシティが全部失敗しているわけです。街は最低100年単位で考えるもので、一方でテクノロジーは基本的に何ヶ月単位なのです。この部分を間違えてはいけないと思います。また、テクノロジー中心でまちづくりを進めると、やはりテクノロジーを作ってる会社の都合いい話しか出てこなくなります。例えばMaaSの場合、自動車がうまくいくというよりも、その街に住む誰もが移動できる多様性でインクルージョンの意味合いで大切なわけです。つまり、誰も取り残さないためのMaaSでなければいけない。そのように住んでる人の視点で、テクノロジーがきちんと設計される必要があり、そうすると意識せずともテクノロジーが黒子になっていくと思います。だから黒子としてのテクノロジーをどのように作っていくかということを考えつつ、まちづくりしていく必要があると考えます。

タケト氏 テクノロジーが黒子というのは興味深いですね。さあ秋田さん、いかがでしょうか。

秋田氏 北野先生と全く同意見です。テクノロジーが浸透していく中だからこそ、**人間中心の街を作りましょう**、ということが最近特に強く言われています。だから千葉市も、テクノロジーがあるからこそ、千葉市の市民の皆様中心のまちづくりというものに、これから本格的に取り組めるんじゃないかと思います。

タケト氏 ありがとうございます。さあ続いての質問に参ります。続いてはこちらです。

〈質問2〉多様性に関連し、外国人の市民も増えてきていると思います。こうした生活者の変化に対しどういう風にしていけばよいでしょうか？

なるほど、こちらは小脇さんからお願ひします。

小脇氏 そうですね。本当に難しい問題ではあると思いますが、実際に私の息子と娘も保育園に入っていて、たまたま地域柄なのか、色々な国籍のお子さんがすごく多いです。多様性と言われてしまふと身構えてしまうと思うのですが、実際は子供達は普通に遊んでいますよね。なので結局のところ、そこのかなって子育てをしてる中では思います。

もちろん本当に生活を一緒にしていくとなると色々な問題が起きてくるかと思いますが、日本人同士であっても本当に人それぞれ考え方方が違うので、外国の方だからというよりは、**同じ日本に住んでいらっしゃる、同じ場所に住んでる人同士でそれぞれが認めあつたうえでどう生きていくかっていうか**という考え方、「共生」だと思います。私個人としてはそんなに難しく考えず、困っていたらお互い一緒にやろうよという感じで、現状は子どもも保護者もすごくうまくいってるので、あまり難しく考えない方が良いのではないかなと思っています。

タケト氏 本当にそう思います。子どもから学んだ方が良いのではないかなって。うちの子どものクラスにも外国の方はいらっしゃいますが、全然気にせず、友達の一人としか見ていないですよね。大人は考えすぎているのかもしれないですね。では、次に秋田さんお願ひします。

秋田氏 全く同じだと思います。大学では特に外国の方がすごく多く、当たり前のようにいるのほぼ意識しないというのが実情です。ただ重要なのは、例えば病院とか市役所のような場所で、外国の方がきちんとコミュニケーションできるような基盤を整えていくことだと思います。私の研究室にも出産するタイ人の留学生がいたのですが、生まれるという時に通訳がスムーズに行われず、いざという時が結構難しかったんですね。そのため、**公共施設が多言語対応していくことが重要になってくる**と思います。



シンポジウム/質疑応答

タケト氏 なるほど、外国の方も僕たちと同じように生活できるような環境を整えるということは大事ですね。北野さんいかがでしょうか。

北野氏 いろいろな国の方は今後増えていくと思います。やはり**違いを楽しむ**ということでもありますよね。いろいろな考え方やバックグラウンドの人がいることは楽しいことだと思います。自分の考え方と違うからといって驚くのではなく、それ 자체を楽しんでいくことだと思います。

また今お話に出た、**医療や行政の多言語サービスはすごく重要で必須**なんですね。

日本にいる外国の方々は、自分の出身国と日本を行ったり来たりするはずです。そうすると向こうで受けた医療とこちらで受けた医療がどう連動するかがすごく重要になってきます。恐らくずっと日本にいるわけでは無く、行ったり来たりったり、親戚や親が自分の出身の国に残っていたりと状況によって変わるので、**国を超えての医療連携や教育連携**をすることをやってかないといけないと考えます。

日本のこれから考えると人口が下がってきたり、国内のマーケットも下がってくるので、国内にも外国人がいるし、日本でも国外で働く人ってものすごく増えると思います。それに対して外国人の市民が多い街は、これから波及するという意味では、最初からそのような部分が育つという点で有利ですよね。そのような先例となるまちづくりが必要だと思います。

タケト氏 国を超えた医療で同じことするというのはなかなか難しいと思うけれど、ぜひやってほしいですね。さあ続いての質問参りましょう。

〈質問3〉 美浜区出身です。埋立地やニュータウンなどの特徴を活かしていくのはいかがでしょうか。

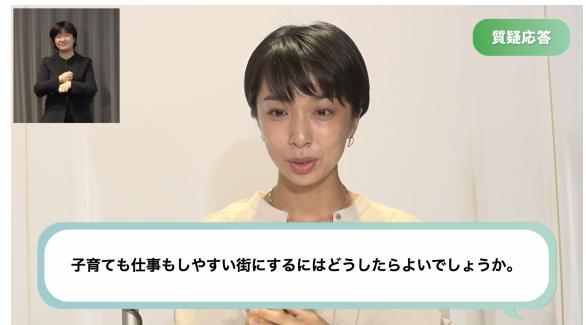
ということですが、こちらは秋田さん。

秋田氏 実は私もニュータウン出身です。ニューですが、そろそろ少しずつ成熟化していく段階にあると思います。なので、最初に私の報告でお話をしたように**ニュータウンという新しく作られた街**に対して、**人の手垢をつけていく、愛情を持って育てていく**ということが凄い大事だと思います。これから住んでる皆さんでペタペタと手垢をつけていくようなそういう感覚がとても大事だと思ってます。

タケト氏 いいですね。みんなで印をつけていくような、ペタペタという言い方いいですね。神谷さんいかがでしょうか？

神谷氏 千葉市の特徴の一つで、特に美浜区は埋立地で、比較的新しい市民の方が多いです。全国からいろいろな方々が集まっています、お話を伺うと非常にバラエティに富んだお話を伺える、そのような場所だという風に思っています。地域のつながりも成熟化していく中で出てきており、そういった方が地域の方を巻き込んでいくようなまちづくりが行われているところも出来てきていますので、そのような取り組みを街としてもしっかり支援していくことが大事なのではないかという風に思っております。

タケト氏 ありがとうございます。続いての質問参りましょう。



〈質問4〉 子育ても仕事もしやすい街にするにはどうしたらよいでしょうか。

なるほど、こちらは小脇さんに来ております。

小脇氏 特に乳幼児期などは、本当に子育てをしているだけで大変なんですね。そこでさらに仕事をもするって本当にすごいなという風に思います。どうしたらいいかといえば、保育園の設備を整えるなど、お父さんお母さん、子育てする人たちの目線に立って一緒に考えてもらえるようなことをぜひ考えていただきたいなと思います。千葉市はすでに取り組まれていると思いますし、コロナ禍のときにも報道を見ながら本当にかなり細かく手厚いなと思っておりました。

秋田氏 お母さん達は本当に忙しいので、一つの機能にしないことが大事だと思います。例えば、駅と市役所の機能を一緒にするとか、千葉市は里が近いですから農地に遊びに行くついでにそこで採れた野菜が買えるなど、様々なことがあまり移動しないでも一度にできることが大事ですね。

シンポジウム/質疑応答

タケト氏 なるほど。私は昔のようなことができたらと思いますね。昔はご近所の人や他の人の子どもも全部みんなの子どものようでした。街全体で子どもを育てるようなことが、ご近所付き合いが減り、預けられることなどがなくなりましたよね。

神谷さんはいかがでしょうか。

神谷氏 **子育ても仕事もしやすい街**というのは千葉市が目指して街そのものです。元々待機児童0に力を入れてきてまして、最近は二年連続0を達成しています。今は、放課後の子どもの預け先の充実を図っていきたいなと思っています。選んでいただけるようにして、希望される方はどこに必ず預けられるというような、他の仕事をしながら子育てがきちんとできる街にしていきたいなと思います。

あと「**多様性**」という言葉があったと思いますが、千葉市はいろいろな体験ができる街だと思います。しかし意外と市民の方は、千葉市の他の区でどんなアクティビティがあるのかということをご存じない方が多いというのを感じてますので「千葉あそび」という冊子を作らせて頂いております。市外の方はもちろん、市内の方に千葉市内のどういうところでどんなお子さんを連れて楽しむことができるのか、そういうこともお知らせしていければいいなと思っております。

タケト氏 隣の区のことは全然知らなかつたりしますよね。例えば若葉区が乗馬クラブ日本で一番多いとか。中央区に住んでいるものの知らないくて、そういうことを共有し合えば馬遊びもできるんだとか、色々考えられますよね。さあ続いての質問で最後になります。

〈質問5〉withコロナの時代に合わせたまちづくりだけでなく、コロナ後も住みやすいまちづくりについてどのように思いますか。

本当に今の課題ですね。では北野さんいかがでしょうか。

北野氏 コロナ後だとやっぱり医療が一つですね。後はみんな在宅勤務だったりサテライトオフィスだったりしているので、**ライフスタイルの多様性**だと思います。それがすごくできる場所として、美浜区の海岸沿いなどですと、色々楽しそうな場所に変わるのはないかなと思っています。若葉区を見ていても、丘があってゴルフ場がたくさんあって面白いなと思い、千葉市は面白い場所がたくさんあるなということに気が付きました。そういう多様な場所で生活できるということが、千葉の面白さだと思いますが、コロナ後はやはり**価値観が自然や多様性などライフスタイル中心になる**と考えます

秋田氏 千葉市は空間だけで見ると、withコロナにある程度合っており、千葉市の中でいろいろな体験ができます。市境、県境を越えなくても、海もあり山もあり都市もあり里もあり、様々なものが揃っていて、馬もいて魚もいて、農地もあってという所なので、今の時代に合っていると思います。ですが、このコロナの時代に人々が何を感じたかというと、やはり人と会って話したい、人と触れ合いたいということだと思います。

そのためコロナ後も住みやすいまちづくりというのは、先ほどタケトさんが仰っていたように**いろいろな人が繋がった街**だと思います。空間的には千葉市は十分揃っていると思うので、これからは**人ととのつながりをもつとしっかりと作ってコミュニティを強くしていく**、それがコロナ後の住みやすいまちづくりに繋がると思います。

小脇氏 私も先生の仰るとおりだと思います。コロナ禍で、家族がいる人は特に家族の時間をすごく大切に感じたなと思っています。また逆に、経済的不安の部分などで、働いてることもすごい重要なと感じたと思います。そのため、これからは**誰でも仕事をしやすい環境**が重要だと思います。日本の現状では出産で仕事を一回離れるのを自分の選択として選ぶのであれば全然良いと思いますが、本当は離れたくはなかったものの環境の問題で離れるに対する女性はまだまだ多いと思います。そういう意味で、**女性の活躍推進ができるようなことを街全体でサポート**していくとコロナ後も、全体的な良さに繋がるのかなって思っております。

タケト氏 確かに出産で一度職場を離れて、今度また戻る時は大変ですからね。

小脇氏 そこの環境も含めて千葉市はできそうですね。

タケト氏 神谷さんいかがでしょうか。

神谷氏 コロナ禍で仕事の仕方や、ライフスタイルが変わってきてていると思います。またコロナ後もそのような変化は完全に元に戻らずに、ある程度は今変わった流れが続くと思っております。先程も申し上げましたが、職住接近のライフスタイルを実現できる点がこれまでの千葉市の売りではありました。今後、そういう価値がますます評価される時代になってくるのではないかなどと思っており、**仕事も出来て千葉市を拠点として房総半島の様々な楽しみを体験できる千葉市の価値**に更に磨きがかかるような政策を進めていきたいなと思っております。

シンポジウム/質疑応答

▽シンポジウムにて回答ができなかつた質問

- ・住民と行政の距離感を縮めて、地域課題の解決に繋げていくことが必要ではないでしょうか。行政も、NPO、自治会、市民も参加できる、小さな一歩があればと感じますが、参考になる事例などありましたら、教えてください。
- ・千葉市は公園が多く、総合公園のような大きな公園、稲毛海浜公園などは、楽しい空間になってきた。公園のリノベーションに力を入れて欲しい。
- ・小脇さんへ。東京でもなく、田舎でもない、千葉市の印象は？移住したい町はありますか？
- ・パネリストの皆さんのが好きな千葉市の風景をお聞きしたいです。
- ・千葉市のスマートシティーはニュービルドでは無く、レトロフィットだと思っています。PoCの限界は今ある技術で目の前の課題を解決するアプローチのモデル自体だとかんがえます。そうですが、30年後のるべき都市像を描き、今の延長では無い新しいビジョンをまず策定する必要があると思っていますが、いかがでしょうか。
- ・移動手段がどうなっているか気になります！
- ・2050年のカーボンニュートラルに向けて、10年後の2030年に、どの程度の道筋をつけ、成果を出しているのかが大事になると思いますが、千葉市として、行政、企業、市民が、カーボンニュートラルに向けて、今後どのような取り組みをすべきか、千葉市らしい取り組みが何かあるか、お考えを聞かせてください。
- ・秋田先生 拝見したお写真は雄勝花物語でしょうか。「手間×時間」と、かねてから使われている言葉「手間ひまをかける」はどう相似性があるとお考えですか。
- ・スマートシティ実現に必須の脱炭素エネルギーですが、マイクログリッドによるプロシューマー発電マーケットを実現したUtility3.0の未来像を実現しようと考えていますが、方向性としていかがでしょうか。
- ・多様性に関連し、外国人の市民も増えてきていると思います。こうした生活者の変化に対しどのように考えていらっしゃいますか？身の回りの具体的な課題としては回覧板や町会費などの自治活動に少し課題感を感じています。
- ・千葉市民が、もっと千葉に愛着を持っていたくためには、どのようにすればいいと思いますか？
- ・千葉市出身で、現在は金沢市に移住した者です。都市と自然のバランスという点で千葉市と金沢市には近いものを感じています。これまで、どうしても東京方面を向いてきた中で千葉市は距離的にも劣等感（？）を抱いてきた気がしますが、まちの歴史や自然を磨くことでもっと魅力的なまちになっていく気がします。何を磨いていくかについて、パネラーの皆さんに聴いてみたいです！個人的には美浜区出身ということもあり、埋立地などのニュータウンでの暮らしを磨いていければよいのかなと思っています。
- ・JR京葉線で、風の強さをいかして発電をしていますよね。市でもできそうな気がします
- ・ここまでパネルでは6つある区の特長より県全体の話が中心になりました。6区の位置づけをどう考えるか、ぜひご議論いただきたいです。
- ・稲毛海岸から花見川、そして印旛沼から利根川へと親水空間が繋がっています。印旛沼では、マラソンで金メダルをとった高橋選手の練習ばしょだったようです。海辺、都会、田園といった風景の変化があるそうしたエリアを千葉市と周辺市で盛り上げると面白いと思いますが、いかがでしょうか？

シンポジウム/質疑応答

▽シンポジウムにて回答ができなかつた質問

- ・千葉市の弱みをどのように捉えていますか。またそれを克服するには、どのような取り組みが必要でしょうか。
- ・まちづくりを行うにはデベロッパーとの協働も重要だと思います。今後のまちづくりに向けデベロッパーに求めるのはどのようなことでしょうか？
- ・子供の医療費が診察、薬代で600円かかり、子供は病院にかかることが頻繁にあるので兄弟で病院に行くと1200円になり地味に負担が多いです。
- ・外国人市民が何に困っているか、アンケートなどでニーズ調査をしているでしょうか。こどもは環境になじんでいたとしても、大人は大変そうです。
- ・高齢化、人口減少社会の中で、都市の発展性をどう考えますか？
- ・稻毛海岸から海浜幕張までの海沿い、花見川のサイクリングロードはコロナ禍はとても賑やかでした。withコロナの時代に合わせたまちづくりだけでなく、コロナ後も住みやすいまちづくりについてどのように思いますか。
- ・千葉ってディズニーランド以外に何があるの？と言われない「千葉の自慢」を作りたいです！
- ・街を発展させていくためには現実お金がかかる。テクノロジーの活用によるインフラ整備もそうであろう。鍵は雇用を生むことだと思うが、千葉市の特性を踏まえた雇用を生む案などないでしょうか？
- ・自然豊かな千葉市ですが、この特徴をどう活かしていくのが良いのでしょうか？
- ・昼夜千葉にいる人が多いなら、Wi-Fi100%普及することで市民の方の行動特性から市民サービスなどに活かせそうですがどうでしょう。（個人情報的に無理？）
- ・気候変動を見据えたまちづくりについて、現時点で具体的に千葉市で構想されているプロジェクトはありますか？

シンポジウム/クロージング

タケト氏 ありがとうございます。まだまだ話しきり足りないところですが、まもなく終了の時間になりましたので、最後に千葉市長 神谷俊一さんから視聴の皆様に向けてコメントお願ひします。

神谷氏 一時間程度の短い時間でしたが、ご視聴いただきまして本当に有難うございました。三名のパネラーの方々から将来の千葉市についての気づきを沢山いただくことができました。キーワードを拾ってみたいと思いましたが相当数いただいたため、どのような形で計画に盛り込んでいくのかということを整理するのが大変だなというのが率直な感想であります。千葉市にはこれから時代に必要なものが揃っていると思いますので、その一つ一つをいかにきちんと磨き上げて、そこで生活する市民の皆様が生きがいを持って暮らしていける、そのようなまちづくりをしていきたいと思っています。またプロセスが大事だというお話はありましたが、行政が作ったものをそのまま受け入れて頂く時代はもう過ぎていると思います。計画段階から市民の皆様に参加していただいた納得感のあるまちづくり計画をしていきたいと考えております。今日のシンポジウムにご参加いただいた方はご意見直接頂いておりますけれども、今日終わった後でも結構でございますので、計画について少しでも多くのご意見を頂きたいと思います。地域の活動に是非参加していただき一緒に進めていければさらに素晴らしい千葉市になっていくと思っています。今日は本当にどうもありがとうございました。



タケト氏 今回のシンポジウムは将来にわたり魅力と活力にあふれるまちづくりを進めるために千葉市が作っている千葉市基本計画の素案を多くの方に知っていただき興味を持ってもらおうということでパネリストの方々とディスカッションを行って参りました。

今、その素案に対する市民の皆様のご意見を募集中なので、この機会に是非千葉市の未来のために、シンポジウムを見て・聴いて・感じたこと、考えたことを意見として送っていただきたいと思います。詳細は千葉市のホームページにて公開中ですが、募集期間は6月15日から7月15日までとなっております。千葉市基本計画(素案)、意見募集で検索してみてください。

なおシンポジウムで行ったパネルディスカッションの様子は本日から6月27日までの期間限定で仮想空間で試聴することができるので、ぜひこれを見たという皆さんには、周りの人にお知らせしてください。よろしくお願ひします。

最後になりますが、仮想空間でご覧になった皆様にはアンケートに是非協力していただきたいと思います。画面右下のメニューバーからアンケートを押すと回答できます。または退出ボタンを押すと自動的にアンケートが表示されますのでどちらか一回のみで結構ですのでぜひ回答の方よろしくお願ひします。

本日は皆さんご視聴いただきありがとうございました。またお会いしましょう。さようなら。

